本年度より、自己点検・評価についてのコーナーを設けました。

NEWS

モラりすの
自己点にゅーす

vol.3

詳細な「三つの方針」公表に向けた取り組みについてお知らせします。

「三つの方針」とはどんなもの？

「三つの方針」とは、以下の3つです。

◆学位授与の方針
◆教育課程編成・実施の方針
◆入学者受入れの方針

中央教育審議会（以下、中教審）では、2005（平成17）年の「わが国の高等教育の将来像」（答申）で三つの方針の明確化の必要性を示して以降、2008（平成20）年の「学士課程教育の構築に向けて」（答申）では、三つの方針の明確化とそのための改善方策として①学士力の提示、②順次性のある体系的な教育課程の編成、③初年次教育の充実や高大連携の推進などについて提言しています。さらに、2012（平成24）年の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）でも、三つの方針は、質を伴った学修時間の実質的な増加・確保、体系的な教育プログラムの編成の前提として言及されています。

以下、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（答申）より一部抜粋

●学位授与の方針を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的に教育を展開すること、その成果をプログラム共通の考え方や尺度に則って評価し、その結果をプログラムの改善・進化につなげるという改革サイクルが回る構造を定着させることが必要である
●学位授与の方針に基づいて、個々の学生の学修成果とともに、教員が組織的な教育に参画しこれに貢献することや、プログラム自体の評価を行うという一貫性・体系性の確立が重要である。はじめに個々の授業科目があるのではなく、まず学位授与の方針の下に学生の能力を育成するプログラムがあり、それぞれの授業科目がそれを支えるという構造にならなければ、個々の教員が授業の改善を図っても、学生全体が明確な目標の下で学修時間をかけて主体的に学ぶことは望めないのである
●学長を中心とするチームは、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、学修の成果に係る評価等の基準について、改革サイクルの確立という観点から、相互に関連付けた情報発信に努める
●学位授与の方針に基づく組織的な教育への参画、貢献についての教員評価を行い、教員の教育力の向上・改善や処遇の決定、顕彰等に活用する

多くの他大学でも公表中！

前述の答申等からも判るように、大学に対する社会からの要請は刻々と変化しており、2010（平成22）年の省令（学校教育法施行規則第172条の2）で、翌4月からの教育情報の公表が義務化されました。この第4項には、入学者受入れの方針を公表することが、明記されています。

その他の事項に関しても、各大学には様々な教育研究情報を積極的に公表することで、社会に対する説明責任を果たしていくことが求められており、既に多くの大学では、大学に関する情報と併せ、三つの方針についてもホームページ等に掲載しています。

年に数万人が本学の方針を読む!?

本学では、既に大学全体の三つの方針を公式ホームページで公表しています。より詳細な情報を公表することで、社会へ本学の教育研究活動を説明すべく、2011（平成23）年度から各学部・研究科において三つの方針の明文化を図り、今年度はこれらを全学的に再検討しており、2013（平成25）年4月には、大学全体、大学院全体、学部学科・研究科ごとの「三つの方針」を公式ホームページで公表することを予定しています。

今年度10～11月の実績から計算すると、大学全体の「三つの方針」ページは年間約5000アクセスが推計され、各学部・研究科の方針が公表されれば、この数倍のアクセスが見込まれます。

さらに、今後はシラバスや大学案内等各種媒体へ掲載される可能性のある「三つの方針」は、より多くの方に読まれる公算が大！みなさんも、ぜひ再確認してみてください。

RISSHO UNIVERSITY
FD NEWS LETTER vol.9
平成25年1月31日発行
編集発行：立正大学学長室政策広報課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL：03-3492-5250 FAX：03-5487-3340
URL：http://www.ris.ac.jp/

「モラリスト×エキスパート」を育む。
立正大学

RISSHO UNIVERSITY

FD NEWS LETTER

立正大学FD（ファカルティ・ディベロップメント）だより

|1| 「立正」って何ですか?（仏教学部長　原　慎定）
|2| ルーブリックを活用しよう（FD担当副学長　吉岡　茂）
|3| 立正大学FD活動報告（平成24年度～）・FD用語集
|4| 自己点にゅーす

vol.9
発行日
平成25年1月31日
URL
http://www.ris.ac.jp/

「立正」って何ですか?

仏教学部長　原　慎定

立正大学に勤務する我々は、はたして「立正」の本質的な意味内容をどれだけ共有しているであろうか。本学のアイデンティティーが表明された名称に対して、曖昧な理解のままであってはならないと思われる。

そもそも「立正」の名は、鎌倉時代に続発した天災地変に強い危機感を懐いた日蓮聖人が、さらなる国難を未然に防ぐため、社会秩序の立て直しの方策を幕府に諫言した『立正安国論』（39歳）に由来する。いっぽう本学の建学の精神「真実・正義・和平」は、「我日本の柱とならん」「我日本の眼目とならん」「我日本の大船とならん」という三つの誓願に由来し、これは佐渡流罪中の『開目抄』（51歳）に表明される。ただしこの誓願は立教開宗（32歳）の時点を回顧し、20年の弘教活動に伴う幾度の受難体験を経て、仏陀釈尊の真意を体現しうる「法華経の行者」としての自覚に達し、改めて自己の役割を検証する文脈の中で開示されたものである。

日蓮聖人といえば、他宗を盛んに批判したために迫害を受けたという面で、排他的なマイナスイメージが強いかもしれない。しかしながら、その批判精神は単なる独善主義とは異なり、厳しい自己批判を伴うことに留意しなければならない。自我意識を克服した真摯な求道、すなわち真実への飽くなき探求心を持続すれば、進むべき道は自ずと開かれてくる。ただし自分本位で独善的な意識の延長線上では覚束ない。大事なことは、自己を律する上で何を規範とし、いかなる鏡をもって自身を照射するか、という問題であろう。

仏教的な価値観の一例として、ブータン王国では憲法第1条に「精神的財産」という規定がある。仏教はブータンの精神的財産であり、なかでも平和・非暴力・同情・寛容の原則と価値を奨励するものである、と明記されている。経済的な財産よりも、精神的な財産を最優先とし、仏教の理念を基に国を治めることが強調されており、特に前国王が打ち出した「GNH」という考え方は世界各国から注目されている。「GNP」といえば国民総生産（Gross National Product）であるが、それに対抗して、国民総幸福量（Gross National Happiness）という意味で「GNH」という尺度が掲げられた。人間の本当の幸せは経済最優先の政策では得られないとし、先進諸国が陥った問題を踏まえながら、仏教精神を改めて考え直そうという提言である。

翻って、日蓮聖人が命を懸けて伝えようとした『法華経』では、個人レベルの安住ではなく、社会的使命を遂行することで魂の永遠性に目覚めさせることが課題とされている。例えば人間同士が互いの違いを認め合いながら、かつ全体として調和をはかるための智慧として「一仏乗」という思想がある。加えて「敵こそ我が師なり」という理念も説かれ、矛盾や軋轢の多い現代社会において共有すべき精神的規範が教示されているのである。

結びに、本学の建学の理念を再説すれば、「真実」とは常に問題意識をもって真摯に探求する心、「正義」とは安易な方向へ流されずに自己を律する心、「和平」とは自ら進んで社会に貢献しようとする奉仕の心、そして「立正」とは、これら三つの課題を不断に貫き通そうとする使命感といえるであろう。大学の舵取りをする責任者の力量が問われている昨今、精神的規範の重要性が全学レベルで再認識されることを願うものである。

ルーブリックを活用しよう

FD 担当副学長 吉岡 茂

ルーブリック(Rubric)は、「規定」「例式」といった意味を持つ、一定のルールに従う必要がある客観性と公平性を備えた成績評価に適した評価指標（アセスメントツール）です。学生の成績向上にも効果があります。通常の成績評価(Evaluation)は単に評価するだけですが、ルーブリックには「評価し、改善する」(Assessment)といった学生に対する成績向上のための能動的な働き掛けの意味が含まれています。

昨年11月26日に開催された本学FD講演会で、帝京大学高等教育開発センター教授の土持ゲーリー先生から、「評価尺度ルーブリックの活用方法について」のご講演をいただきました。「教育分野において、ルーブリックは黒板を発明して以来の画期的な発明」といった紹介で始まった先生の講演内容はとても魅力的で、FD全般について刺激的な示唆に富むものでした。ここでは、土持先生の講演内容から得られた知識を中心に、ルーブリックの概略を紹介しましょう。

ルーブリックの作り方

ルーブリックは表形式で作成するもので、表側に「何を学習すべきか」を示すいくつかの『規準』を、表頭に「成績点をつけるための到達レベル」を示す『基準』を書きこんだものです。本学の通常の授業で利用する場合は、シラバスの到達目標(「○○ができる」「○○を理解している」)を『規準』とするのが良いかもしれません。

この到達目標を表頭の何段階かに分けた到達レベルと組み合わせてマトリックス形式にし、それぞれの該当箇所に評価内容を具体的に明示することで、整然とした体系的なルーブリックを作ることができます。ルーブリックを活用することで教員にとっては、ぶれない成績評価が可能になります。

（基準）どのような内容なら、何点をつけるか

（規準　到達目標）どのような視点で評価するか

	極めて高い水準(S)	高い水準（A）	普通(B)	努力を要する(C)	極めて低い（D）
(1)○○を理解し、説明できる	○○の理解と説明が完璧	○○の理解と説明が高い水準	○○の理解と説明が平均レベル	○○の理解と説明が不十分	○○の理解と説明ができない
(2)○○を理解し、計算ができる	○○の理解と計算が完璧	ほぼ正確に理解と計算ができる	理解、計算とも平均レベル	理解、計算とも不十分	理解、計算ともできない
(3)○○を操作できる					
(4) …					

また、実際に学生のレポートを読んでゆく過程で、これまで使用してきた評価視点を外したり、新たな評価視点を追加する必要性が出てくるようなこともあります。このような場合は、シラバスの到達目標とルーブリックの『規準』を変更すればよいことになります。

ルーブリックの効果

ルーブリックを利用することの利点は、上述したように教員がバランスのとれたぶれない成績評価ができるようになることです。しかしそれ以上に、学生の成績向上に効果があることが指摘されています。

シラバスとともにルーブリックを作成して学生に配布すると、学生がルーブリックを見て、「何が評価され、良い成績を取るためにはどうすれば良いのか」が理解できるため、効果的な学習を行うようになります。また、ルーブリックは成績評価の「見える化」を可能にするため、学生が自らの学習活動の強み、弱みを理解するためのツールにもなります。ルーブリックを利用することによる効果は、以下のとおりです。

①ルーブリックを見ることで、学ぶべき対象が明確になりモチベーションが高くなる
②単にまねるのではなく独自の考え方の練習になる
③教員がコメントを付けて学生にレポートを返却するのではなく、ルーブリックの該当箇所に○印を付けて返却するだけで、学生はどこに問題があるのかを理解できるフィードバックが成立する
④アセスメント評価により、学修の改善に繋げることが可能
⑤ルーブリックによって、『学習』ではなく、『学修』を把握することが可能
⑥単なる成績評価ではなく学習意欲を高めるためのツールとして利用できる
⑦アクティブ・ラーニングの評価にも利用できる

ルーブリックの利用は、知識偏重に陥りがちなわが国の大学教育の弱点として指摘されることが多い、自ら問題を発見し解決する力＝「問題発見・問題解決」能力の伸長にも効果があるといわれています。ルーブリックを積極的に利用することで、学生の成績向上につなげてゆきたいものです。

立正大学FD活動報告（平成24年度～）

第2回講演会

日　時:平成24年10月24日(水)　15:00～17:00
場　所:立正大学 大崎キャンパス11号館8階 第6会議室
熊谷キャンパス1号館第1会議室
（遠隔会議システムによる両キャンパス同時開催）
テーマ:「発達障がいのある学生支援」について
講演者:高橋知音氏 信州大学教育学部教授

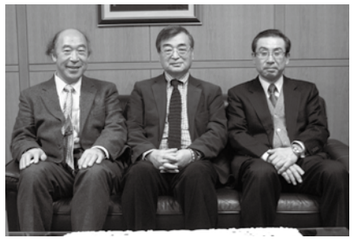
高橋教授は「自閉症スペクトラム障がい」や「ADHD」「学習障がい」について、正しい知識や対応方法などを、同じ障がいのある著名人の具体事例を挙げながら、紹介されました。また、大学としてどのような支援があるのか、分かりやすく説明されました。

第3回講演会

日　時:平成24年11月26日(月)　16:10～17:40
場　所:立正大学 大崎キャンパス11号館8階 第6会議室
熊谷キャンパス1号館第1会議室
（遠隔会議システムによる両キャンパス同時開催）
テーマ:「評価尺度ルーブリックの活用方法」について
講演者:土持ゲーリー法一氏
帝京大学高等教育開発センター教授

土持教授は、ルーブリックの説明、活用法、メリットなどについて紹介し、ルーブリックは、黒板発明以来、教育者にとって最も便利なアセスメント・ツールの一つで、新たな評価方法であると、ご講演されました。

また、ルーブリックについての資料を基に、ご自身の実例（試験を学生に作成させる、コンセプトマップの作成等）についてもご紹介されました。



文学部主催FD講演会開催のお知らせ

日　時:平成25年2月20日(水)　11:00～12:00
会　場:立正大学大崎キャンパス1号館4階 第7会議室
テーマ:インフォメーションからインテリジェンスへ
講　師:小谷賢氏
（防衛省防衛研究所国際紛争史研究室主任研究官）

近年、情報の保存・流通コストが一気に下がり、その結果、情報爆発が起き、ビッグデータと呼ばれる多種大量でスピーディーな情報が得られるようになりました。このビッグデータの波は、学問の世界にも押し寄せています。そのため、大学の教職員にも、このビッグデータの有効利用が求められるようになりました。それは、ゴミの山から真に役に立つものを、いかにして抽出・編集するかという問題であり、その作業は、「ビッグデータからスマートデータへ」「インフォメーションからインテリジェンスへ」などと呼ばれています。

今回の企画は、こうした視点に基づき、情報爆発の時代に適切に対応できるよう、教職員のさらなる質的向上を図るものです。学部に関係なく、どなたでもご参加可能です。教職員皆様のご参加をお待ちしてます。

FD用語集

サービス・ラーニング
それまでに学んだ知識を実際にある地域での社会奉仕活動に活かすことで、自身の学問的取り組みや進路について新たな視野を得る教育プログラム。サービス・ラーニングの導入により、(1)学んだ専門知識を実社会で活用可能な知識・技能に転換できる、(2)将来の職業について考える機会が得られる、(3)自身の社会的役割を自覚することによる資質や能力の向上が図れる、といった効果がある。

学習と学修
『学習』は「勉強する」といった意味に過ぎないが、『学修』はより広汎な体系性を含んだ意味内容を持つ。大学設置基準に定める『学修』は、(1)授業のための事前準備、(2)授業の受講、(3)事後の展開からなっている。教員が行う授業は学修の過程全体を成立させるための核であり、学生の興味を引き出し、事前準備や事後の展開が適切・有効に行われるように工夫する必要がある。学修＝事前準備＋授業の受講＋事後の展開＝授業の受講＋授業外学修。1単位は、これら学修全体が45時間を要する内容から構成されることを標準としている。